



Vol. 129

CONTENTS

【コラム】教育のDXと情報教育に関心をお持ちの方はぜひWCCE 2022へ!…斎藤 俊則

【解説】オンラインプログラミング学習システム Bit Arrow の紹介…長 慎也

【解説】学習基盤を拡張する国際技術標準 IMS LTI 1.3 第1回 LTI 1.3 の機能と意義…常盤 祐司・山田 恒夫



COLUMN

教育のDXと情報教育に関心をお持ちの方は ぜひWCCE 2022へ!



WCCE (World Conference on Computers in Education) 2022 は 2022 年 8 月 21 日より (ただし前日の 8 月 20 日にプレイベントあり) 4 日間の日程で広島市にて開催されます。WCCE 2022 は本会が参加する IFIP (International Federation for Information Processing: 情報処理国際連合) の TC3 (Technical Committee 3: 教育に関する技術委員会) のフラグシップカンファレンスであるとともに、本会コンピュータと教育研究会 (CE) と教育学習支援情報システム研究会 (CLE) が共同で主催する国際会議です。この会議では主に教育におけるデジタル技術利用と情報教育に関する研究発表や意見交換が行われます。WCCE は 1970 年の第 1 回アムステルダム大会より数年おきに開催され、今回の広島大会で第 12 回目を迎えます。

この会議の特色は、当該分野の学術的な研究発表に加えて、教育実践に携わる学校教員や教育政策に携わるさまざまな実務家が集い、各国の状況を踏まえて教育の場のデジタル化や情報技術の知識普及に関する取り組みについての意見を交わす場である点です。この特色はキーノートスピーカの人選にも受け継がれています。今回はオードリー・タン (Audrey Tang) 氏 (台湾デジタル相)、中島さち子氏 (steAm 代表)、ミカエル・コリング (Michael Kölling) 氏 (キングスカレッジロンドン)、緒方広明氏 (京都大学) にご講演いただく予定です。それぞれデジタル教育政策、STEAM 分野の教育実践、コンピュータサイエンス教育、そしてモバイル・ユビキタスラーニングや教育データの活用など、この会議に関連する幅広い分野でご活躍の方々です。

また、WCCE 2022 は IFIP TC3 による国際会議であると同時に、国内の関連分野を横断するジョイントカンファレンスとしての側面があります。すでに、教育デジタル化や情報教育に関連する国内の 9 つの学会様よりご協賛をいただき、所属会員に論文投稿や参加登録のご案内を配布していただきました。この会議では国境のみならず所属学会の垣根を超えた交流が生み出されることが期待されます。協賛学会についてはぜひこちらのページをご確認ください^{☆1}。

表題の通り、教育のDXや情報教育の当事者である皆様、またこの分野の動向にご関心をお持ちの皆様はぜひこの会議にご出席ください。コロナ禍によりハイブリッド開催となりましたが、事情が許すようでしたら大会会場 (広島国際会議場) に足をお運びいただけますと幸いです。会議の詳細は大会 Web サイト^{☆2}をご確認ください。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

☆1 <https://wcce2022.org/assoc-societies.html>

☆2 <https://wcce2022.org>



斎藤俊則 (星槎大学) (正会員) t-saito@gred.seisa.ac.jp

星槎大学共生科学部兼大学院教育学研究科准教授。本会 IFIP 委員会 TC3 (教育) 代表。本会情報処理教育委員会委員。WCCE 2022 運営委員長として同会議の広島開催の準備に取り組む。